



分割復位式模型における正確な 歯列位置の再現

石原 義博

静岡県歯科技工士会所属
歯科技工士生涯研修4期修了
日本歯科技工士会理事
石原 齒研



私たち歯科技工士は日常、歯科医師から届けられた印象や石膏模型に対し、歯科補綴物等の適合精度を上げるため様々な加工を行っているが、この時、チェアサイドより得た情報をラボサイドで失わないよう細心の注意を

払う必要がある。

そこで今回、基本となる正確な歯列位置の再現を目指した分割復位式模型の製作について、改めて振り返ってみたい。

fig.1



fig.1：台付け石膏との高い密着度を得るため、モデルトリマー等により削除された基底面をサンドペーパーで滑らかにする。

fig.2

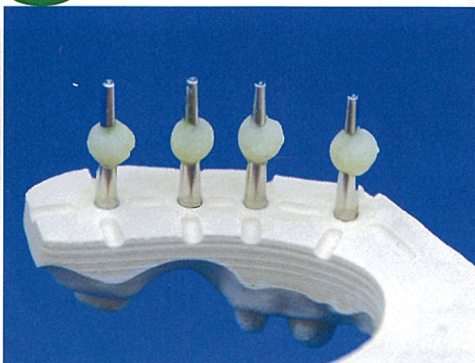


fig.2：半円形の回転防止溝を付与し、ダウエルピンの中央部へ5～6mmの球状に即時重合レジンにて盛り付ける（レジン分離材は不要）。

fig.3

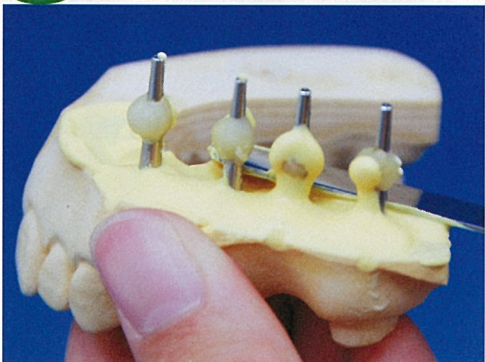


fig.3：台付け作業を行うが、模型上に練和石膏をなするように乗せ、固まってからラバー枠にて台付けする。

fig.3

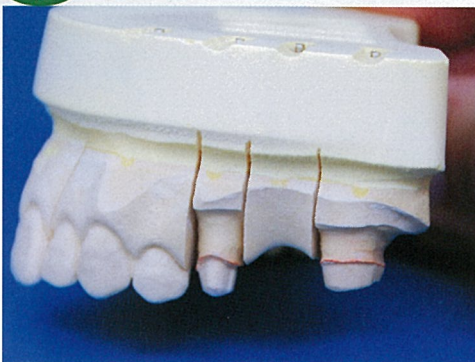


fig.4：密着度に優れた作業模型は、逆さにしても支台歯型が落ちることはない。

作業用模型の出来・不出来は歯科補綴物等の完成度に大きく関わってくる。丹誠込めて製作された歯科補綴物等が再製作となった時、

得てして私たち歯科技工士は「印象採得や石膏の注ぎ方が悪い」と思いがちであるが、まずは自分自身の手元から見直してみよう。

●問い合わせ先 石原 齒研
石原 義博 (いしはら よしひろ)
TEL 055 - 986 - 0523
e-mail : musiba648@hw.tnc.ne.jp